

持続的成長のためのグローバル化の課題

平成 26 年 4 月 4 日
伊藤 元重
小林 喜光
佐々木 則夫
高橋 進

日本経済が今後も持続的成長を続けるためには、オープンとイノベーションを軸に「世界で一番ビジネスがしやすい環境」を構築することが不可欠。モノ、カネ、情報の流れを国境を越えて双方向に拡大させることにより、イノベーションを創出すべき。持続的成長のためには、特に、GDP の 7 割を占めるサービス産業の生産性を上げる必要があり、その観点から、グローバル化に取り組むべきである。

外国人については、高度外国人材の受け入れを積極的に行うとともに、少子高齢化による労働力不足が見通される中で、どのように技能のある外国人に我が国で活躍してもらおうかについて、国民的課題として、政府が中期的に検討していく必要がある。

アジア太平洋地域の経済統合が進む中、グローバルな人材・投資獲得競争も激化している。1. に掲げるような目指すべき姿を念頭に、2. に掲げる課題に取り組んでいくべきである。

1. 中長期的に目指すべきグローバル化の姿

○「世界で一番ビジネスがしやすい環境」の構築

○「内なるグローバル化」と「外へのグローバル化」の好循環の確立

(海外からの優れた人材の受入れ・育成により、我が国に対する理解をもつ外国人材が市場開拓や海外展開を担い、対内投資の受入れにより我が国の優れた財やサービスをグローバル市場につなげるといった好循環を確立)

○高度外国人材、技能のある外国人材が活躍できる環境の構築

○外国人のサポートにより日本人が潜在力を発揮できる社会

○人権が保障され、外国人にとっても生活しやすい環境の確保

(家族面、言語面、待遇面など、日本で働く外国人の立場に立った生活環境の確保)

2. グローバル化に向けた課題の所在

(1) 対日直接投資

低い収益性とその裏腹にある高いコストが課題。収益性を高める環境整備のほか、法人実効税率の引下げ、グローバル人材の育成等を通じ、課題解決に政府一体となって取り組むべきである。

(2) 外国人の活用

高度外国人材の受入環境を改善するとともに、多くのわが国女性の潜在力を発揮させる観点から、育児・介護中で就業希望しているが就業できない女性(220 万人強)等のため、家事の補助・介護分野での外国人のサポートも検討すべきである。

中期的には、他国の経験を参考に、十分な管理体制(政府間の取り決めなど)の下で、国内でどうしても人材が不足する分野に技能職として一定の外国人を受け入れる方法を検討すべきである。

(3) 技能実習制度の抜本的見直し

国際協力の観点、我が国企業のグローバル展開を支える等の観点から、管理・運用体制の強化をするとともに、一層の充実を検討すべきである。